

旧門司三井倶楽部

旧門司三井倶楽部の豪華なデザインは、20 世紀初めの数 10 年間の門司の繁栄を体現している。旧門司三井倶楽部は商社三井物産によって建設され、1921 年に完成した。翌年には訪日旅行中の著名な物理学者アルベルト・アインシュタイン（1879-1955）を迎え入れた。

建物の外観は、当時の日本におけるヨーロッパの強い影響を反映している。むき出しの木材、スレート屋根、モルタルの縞模様はすべてドイツのデザインを想起させるもので、日本建築では異例な左右非対称の窓がある。クラブの 1 階の居間と応接間は、天井のレリーフ、大理石の暖炉、装飾的なマンツルピースに見られるようにアール・デコ様式で調度されている。

アインシュタインメモリアルルーム

アルベルト・アインシュタインと妻のエルザ（1876-1936）は、43 日間の訪日旅行の最後に、この倶楽部の 2 階の客室を 5 日間利用した。この唯一の洋室スイートは、短すぎるツインベッドや豪華なタイル貼りのバスルームなど、夫妻が滞在した当時の姿に復元されている。

林芙美子記念館

2 階には門司出身の作家、林芙美子（1903-1951）を記念した複数の部屋がある。林芙美子の小説の初版本や私的な手紙、1932 年のパリ旅行日記など、彼女の生涯にまつわる品々が展示されている。また、彼女の作品を映画化したポスターや、彼女の執筆記のレプリカもある。